

科目名	国際私法特講	担当者	オガワ 小川 カズシゲ 和茂	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>国際的な経済活動・人的交流の裏側では、法的な問題も当然のことながら生じてくる。その様な問題が生じないようにするためには、万が一紛争が生じてしまった場合のことも踏まえて、国際的に生じる可能性のある法的問題を十分に検討することが必要となる。</p> <p>本講では、私法的な側面にフォーカスし、国際的な私的法律関係に適用される法はどのようにして決められているのかという点、及び、国際的な私的紛争の解決方法につき基本的な理論を理解し習得する。そのうえで、具体的事例に則して、応用的な論点についても理解する。</p>		
到達目標	<p>財産法関係も家族法関係も国際的な私的法律関係に適用される法の決定方法について、単に法規範の内容を知るといふ範囲にとどまらず、実務の運用、学説の展開、判例の展開などについて体系的に理解し、自らの見解を述べられるようにする。</p> <p>他方で、国際的な私的法律関係について、紛争が生じた場合に、それはどのように解決されるのかという点についても体系的に理解する。</p> <p>以上の内容をしっかりと身につけることにより、国際的な経済活動や人的交流を行う際にどのようなリスクが存在し、それらをどのような方法によって回避するのかという点についても基礎的な知識を養う。</p>		
学修方法	<p>レポートに取り組む前に、教材や参考書を熟読し、国際私法の全体像及び体系的な知識を付けてください。具体的には、基本教材として掲載されている『国際私法』2～30頁を読み、その後『国際民事訴訟法入門』1～8頁を読んで全体像を把握して下さい。その後、基本教材について参考書を適宜参照しつつ読み進めていくと良いと思います。</p> <p>レポート提出する前に数回、草案を事前提出し教員からのコメントを受け、必要に応じ修正をしてください。</p>		
スケジュール	<p>4月～5月までには一度基本教材を通読しておくことが望ましい。</p> <p>前期は6月末までにはレポート課題1を、所定の締切日までにレポート課題2を提出のこと。</p> <p>後期は11月末までにはレポート課題1を、所定の締切日までにレポート課題2を提出のこと。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70%	①教材の理解度、②課題の内容を正確に理解し、課題レポートの内容が論理的であり説得力があるか、③学説・裁判例をきちんと理解しているか、④学説・裁判例などを必要十分な程度に踏まえて課題レポートが書かれているか、⑤レポートしての構成が整い、誤字脱字がないかを総合的に評価する。
	平常評価	30%	平常時でのメールによるやりとりを評価する
履修者への要望	<p>これまで法律学にほとんど触れたことがない方は、4月～5月の間に法律学入門（道垣内弘人『ブレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂、2010年）ISBN:978-4-335313127 1,000円（税別））、民法の入門書（道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社、2014年）ISBN:978-4-532134464 3,500円（税別）などの書籍を通読して、法学の基本的な考え方に慣れておくことが、国際私法を理解していく上では重要です。</p> <p>また、国際私法を理解していくにあたっては、民法・商法・民事訴訟法などのわが国の国内法のみならず外国の民法・商法、さらには国際公法などかなりの法分野に渡っての知識がある方が、具体的なイメージが湧きやすく理解も進むと思います。</p> <p>さらに、日頃から国際ビジネスに関する新聞やニュース報道などにもアンテナを張り、最新の情報の取得に努めてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ① 古田啓昌 教材名： 『国際民事訴訟法入門』（日本評論社，2012年） ISBN：978-4-53-5518950-7 2,300円+税 著者名： ② 神前＝早川＝元永 教材名： 『国際私法（第3版）』（有斐閣，2012年）ISBN:978-4-641-12465-3 2,300円+税 著者名： ③ 道垣内正人 教材名： 『ポイント国際私法各論（第2版）』（有斐閣，2014年） ISBN:978-4-641-04667-2 2,400円+税  『国際民事訴訟法入門』は入門とはあるものの、実務での取扱いも理論的な部分もバランス良く既述がなされ、国際民事手続法の枠組を知るための良著である。他方『国際私法』は、初学者向けに分かりやすい記述を目指したものであり、国際私法の基本的な概要を知るには最適である。『ポイント国際私法各論』は国際私法各論について、論点ごとにどのように準拠法が決まってくるのかを論理的に追求した良著である。
参考図書	櫻田＝道垣内編著『国際私法判例百選（第2版）』（有斐閣，2012年） ISBN:978-4-641-11510-1 2,600円+税 櫻田＝道垣内編著『注釈国際私法 第1巻』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-01846-4 6,800円+税 櫻田＝道垣内編著『注釈国際私法 第2巻』（有斐閣，2011年） ISBN:978-4-641-01847-1 5,000円+税
履修上のポイント	教材については、上掲のとおりであるが、法学の学習においては、教材として指定した文献に加え、裁判例や論文等にも当たる必要がある。とくに裁判例については検討が必須となるので、判例百選は参考図書とはいえ、位置づけは主教材とほぼ同一であると考えてください。雑誌等に掲載されている論文なども検討することが基本ですが、各論点につきより詳しく勉強したい場合には、雑誌などを当たる前に『注釈国際私法』と読むと良いでしょう。
レポート課題 1	国際民事手続法の枠組について論じてください。 <b>留意点：</b> 国際的な財産関係の民事紛争が起きた場合に、どのような流れで処理され、国内の訴訟と比べた場合にどのような問題が生じるのかについて、適宜判例などを交えつつ論じてください。
レポート課題 2	国際私法を利用した国際的な私法律関係における法の適用の基本構造について論じなさい <b>留意点：</b> 「国際結婚（婚姻）」という法的問題を題材に、国際私法がどのように法的問題に適用される法（準拠法）を決めているのかについて、婚姻類似の関係（同性婚・婚約など）についての準拠法の定め方や判例などを交えつつ論じてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 基本教材1と同じ。 教材名： 基本教材1と同じ。
参考図書	基本教材1と同じ。
履修上のポイント	まずは『国際私法』の該当箇所を通読した上で、『ポイント国際私法』という順番で読み進めてください。その後さらに判例百選や『注釈国際私法』を読むと理解が深まります。後半の課題では、前半のレポートとよりは一步進んで、論文などを読んだ上でより深い考察を期待します。
レポート課題 1	当事者による契約準拠法の合意がない場合の契約準拠法の定め方について論じなさい <b>留意点：</b> 契約準拠法の決定方法の全体像についても論じた上で、どのように契約準拠法が定められるのかについて、参考書・判例・論文などを踏まえ論じてください。
レポート課題 2	千葉地方裁判所平成9年7月24日判決（平成7年（ワ）第1702号損害賠償請求事件）判時1639号86頁の事実関係をベースに、法の適用に関する通則法を適用した場合にどのような結論になるのかを論じなさい。 <b>留意点：</b> 上記裁判例は、法の適用に関する通則法の改正前法令である法例が適用された事案であるが、法の適用に関する通則法改正に一定程度の影響を与えた裁判例である。不法行為準拠法の決定方法につき簡単に解説した上で、学説及び他の裁判例にも触れつつ論じて下さい。